

患者の皆様へ

2017年5月15日

呼吸器外科

現在、呼吸器外科では、「肺悪性腫瘍手術後疼痛における関連因子の探索的研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では、平成28年承認後から平成30年12月の期間で研究を行っております。肺癌(疑う場合も含む)に対し肺区域切除以上の手術を予定し、なおかつアプローチ方法が胸腔鏡手術もしくは開胸手術である患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「肺悪性腫瘍手術後疼痛における関連因子の探索的研究」

2. 研究の意義・目的 「肺に対する術後の疼痛は、しばしば2ヶ月以上持続する慢性疼痛として残存することが知られており、QOL(生活の質)の低下の一因となります。この研究では、手術による痛みを評価し、患者および術式に見合った鎮痛薬を早期から導入し、より良い術後経過を送ってもらうことを目標としております。」

3. 研究の方法

当研究では具体的に以下の項目に関して情報を収集しております。大きくわけて2通りの方法で所得し、直接関係するのは「(1)アンケートより取得」になります。

(1)アンケートより取得

疼痛評価(アンケート方式)

(2)診療録より取得

手術予定日、年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、各種採血結果(WBC、血糖、HbA1c、血清クレアチニン、尿素窒素、CRP)、術式、皮膚切開の大きさ、創部の数、開胸肋間の高さ、肋骨の切除の有無、開胸器の使用の有無、手術時間、出血量、硬膜外麻酔のカテーテル先端の位置、手術中の使用薬剤量、術後鎮痛薬の使用状況、術後放射線治療の有無、術後化学療法の有無、胸膜癒着術の有無、合併症の有無

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学教室と千葉大学大学院医学研究院麻酔学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院呼吸器病態外科学

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院呼吸器外科

教授 吉野一郎

043 (222) 7171 内線 5464 (呼吸器病態外科学医局)